

# 食品健康影響評価における リードアクロスの活用について (案)

# 評価技術企画WGの検討状況①

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(Q)SAR		調査事業 ((Q)SARツールの特性等)			手引き策定 (R3.2)		
Read Across		研究事業 (毒性データベース整備)	研究事業 (変異原性(Q)SAR、反復投与毒性の <i>in silico</i> 毒性予測)				
BMD		報告書 取りまとめ (H29.7)	報告書 取りまとめ (H30.7)	指針策定 (R元.10)		指針改正 第2版 (R4.6)	
			調査事業 (ソフトウェアの特徴)		調査事業 (疫学試験結果への適用)	具体的な手順 策定 (R4.2)	
			研究事業 (適用条件検討、ソフトウェア開発、ベイズ推定の活用の検討等)				
予測微生物学					研究事業 (環境ストレス下の生存解明と食中毒リスク評価手法)		

WGの設置 (H28.4)

# 評価技術企画WGの検討状況②

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
(Q)SAR		研究事業 (変異原性評価法の実装)		チェックリスト 等の作成	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価支援チーム構築 (R7.1)</li> </ul>		
Read Across		研究事業 (リードアクロスの適用と信頼性評価)		ガイダンス等 の作成	
BMD	指針改正 第3版 (R5.9)	指針改正 第4版 (R6.4)		報告用書式等の作成	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価支援チーム構築 (R7.1)</li> </ul>		
		研究事業 (ベイズ推定BMD実装化の課題)	研究事業 (ベイズ推定BMD法の適用、ベイズ推定 BMDソフトウェア開発)		
NAMs			調査事業 (現状と必要性に関 するヒアリング)	課題の整理	

# 新しい評価技術の活用のための方向性

## 新たな評価技術の台頭

BMD法、(Q)SARの  
指針・手引きを策定済み



- 体制整備＋運用の充実  
【事務局＋WG】  
※各調査会等への参画
- 技術的検証【研究】  
※各研究班と連携
- BMD関係 松本班
- (Q)SAR関係 古濱班
- リードアクロス関係 山田班

分野ごとの食品健康影響評価における  
現状と課題の把握・整理【調査】

- 専門調査会等座長、関係機関にヒアリング
- (並行して) 海外機関等の情報収集・整理  
➡ヒアリングの際に資料を提示



現状の課題と新しい評価手法の  
マッチング（新しい評価手法を必要  
とする場面と、利用可能な評価技術  
を整理）【調査→WG→委員会】

# 食品健康影響評価における リードアクロス活用のガイダンス骨子（案）

<審議の経緯>

<食品安全委員会委員名簿>

<食品安全委員会評価技術企画ワーキンググループ専門委員名簿>

第1 背景

第2 用語の説明

第3 基本的な考え方

第4 リードアクロスを実施するための前提条件

第5 手順に含めるべき標準的要素

第6 リードアクロスの実施手順  
（各ステップの説明）

第7 実施手順の見直し